

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270201322
法人名	医療法人 梶田医院
事業所名	グループホームみのりの里
所在地	長崎県佐世保市長畑町450-1 (電話) 0956-20-4625
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年12月16日

【情報提供票より】 (平成20年11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 13人, 非常勤 1人, 常勤換算	6.76人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有(100,000円)			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (11月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.87 歳	最低	72 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	梶田医院、川原歯科、佐世保中央病院、千住病院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成14年の開所から一環して理事長、管理者が貫いている介護支援に対する熱い思いがしっかりと職員や利用者、家族に浸透し、更に地域の中に周知され定着した事業所である。地区の民生委員をはじめとして地域住民の方々との交流から独居の高齢者情報を得て、理事長自ら医療面のサポートをするなど、地域と共に高齢者福祉に取り組んでいる。事業所では、日々の支援を行う中で「今日もできて良かった」と利用者と職員と一緒に思えるチームで支援する姿勢が優れている。また、職員を育成するための内外の研修受講が充実しており、今後終末期についての研修が予定されている。利用者の尊厳を重視し、職員の言葉遣いには特に注意しており、管理者はスピーチロックの立場から検証している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価は運営推進会議で公表し、家族へも送付している。改善項目は職員へ話し全職員で取り組んでいる。前回の改善項目であった外部の苦情受付窓口は重要事項説明書に記載され改善されたことが確認できた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員が書込み、各ユニットでまとめられている。不明箇所は管理者から説明がなされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3ヶ月に1度開催されている。メンバーは包括支援センター・町内会長・民生委員・家族・職員・管理者である。外部評価の公表や消防訓練・行事案内などの報告を行っている。また、地域の介護、医療、防犯などの地域の気づきを話す場になっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム玄関に意見箱が設置されている。外部窓口は重要事項説明書に明記されており玄関にも掲示されている。家族からの気づきは訪問時に職員へ話されている。内容は管理者・職員へ申し送りされ、その都度ミーティングで話し合い、検討・改善している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは開設当初より自治活動を率先して行い現在では夏祭り、消防・防災訓練に自治会から参加の声があがるほどの地域との繋がりがあがる。ホームと利用者は自治会のバザーや運動会、お遊戯会、中学生の職場体験など様々な関わりを持っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の運営理念「実りたたえる稲穂のようにいつまでも自分らしくあり続ける人生（とき）を送る」を基本に、年度初めに話し合いを行い、自分らしい利用者の暮らしと地域との関わりを話し合っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念及び介護目標に基づき、毎年年度初めに介護姿勢の振りかえりを職員で行っている。また毎朝の申し送り時に理念を唱和し確認して一日の支援を開始している。利用者の生活が昨日から今日へと持続できるように理念を踏まえた支援を行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは開設当初より自治活動を率先して行い現在では夏祭り、消防・防災訓練に自治会から参加の声があがるほどの地域との繋がりがあがる。ホームと利用者は自治会のバザーや運動会、お遊戯会、中学生の職場体験など様々な関わりを持っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価は運営推進会議で公表し、家族へも送付している。改善項目は職員へ話し全職員で取り組んでいる。前回の改善項目であった外部の苦情受付窓口は重要事項説明書に記載され改善されたことが確認できた。自己評価は全職員が書込み、各ユニットでまとめられている。不明箇所は管理者から説明がなされている。		

グループホームみのりの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1度開催されている。メンバーは包括支援センター・町内会長・民生委員・家族・職員・管理者である。外部評価の公表や消防訓練・行事案内などの報告を行っている。また、地域の介護、医療、防犯などの地域の気づきを話す場になっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市保護課や包括支援センターとの連携体制はとれている。また、地域の宮支所の担当者が事業所を訪問し日頃の様子や情報交換を行い、その他様々な提出書類や申請の対応を相談して連携を図っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ほとんどの家族は訪問が頻繁であるためその時に暮らしぶりや利用者からの話などを伝えている。年5回作成されるユニットたよりや2ヶ月に一度発送するケアプランには利用者の手書きの便りや写真を同封し様子を知らせている。遠方や面会期間が空く場合は電話連絡を行っている。金銭管理は立替が主であり、領収書を送付し精算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に意見箱が設置されている。外部窓口は重要事項説明書に明記されており玄関にも掲示されている。家族からの気づきは訪問時に職員へ話されている。内容は管理者・職員へ申し送りされ、その都度ミーティングで話し合い、検討・改善している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日常的に職員は各ユニットへの行き来があり、全利用者と同顔見知りであるため、ユニット間での異動はスムーズに行われる。また法人内での異動後も職員は顔見せに伺い混乱を防いでいる。職員同士で気づきや意見交換の場を持っている。		

グループホームみのりの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は全職員が参加できるように情報を回覧し、参加希望を募っている。また管理者は職員を育てるためにレベルにあった研修参加を促している。内部研修は年間計画が作成されている。内容は認知症や身体拘束、感染症などで、全員が参加して行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐世保市連絡協議会に参加しており、管理者間での親睦会など参加している。協議会主催の研修には職員も参加しており他ホーム職員との交流が行われている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームへの問い合わせがあると、管理者が本人や家族に聞き取りや面会を行っている。その後見学にきてもらい、ホームのできること・できないことを伝え納得し入居へ至っている。また開始後は食事や行動を見守り、初期プランの作成を行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者はチームとして日々暮らしており、観察する中で知り得た生活履歴を生かすような尋ねを行っている。たとえば魚のさばき方など日常生活の中で利用者から教わる場面づくりをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は支援を通して利用者が自ら要望を伝えやすい関係を築いている。なかでも表現の困難な方は、ホワイトボードや手のひらに文字を書くなどして表現したり、表情を見たり、意見をくみ出す方法を様々行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時はしばらく様子を観察して必要な支援を記録していき、ケアマネージャーが原案を作成する。その介護計画案を見せながら、利用者や家族に希望や意向を聞き、反映させた計画を作成して再度説明し確認をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは6ヶ月を基本としているが、毎月のミーティング、担当者の気づきの記録、3ヶ月ごとのモニタリングで変化があった場合はその都度計画を作成している。見直しにおいても利用者や家族に希望や意向を聞き、計画に反映させている。6ヶ月に一度のサービス担当者会議に家族が参加することもあり、主治医の意見、アドバイスも聞きながら、必要な支援を話し合い作成している。ただし、変化があった際の計画変更が申し送りなどに記載されており、介護計画書への記載がない。	○	変化があった際の計画変更は、介護計画書に変更内容がわかるよう記載し、職員の誰もがいつでもすぐに確認できるよう期待したい。また計画変更が家族に報告されているかわかるように家族のサインで確認できる工夫が望まれる。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	お墓参りや外食、美容院への送迎など利用者や家族の希望については、積極的に支援している。また地域の独居老人宅の医療支援を行うなど事業所周辺の住民に対する柔軟な支援も行っている。		

グループホームみのりの里


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療機関から利用開始となった利用者が多く、理事長自ら往診し、利用者の健康管理はもとより急変時の対応もできている。また、それ以外であっても本人や家族の希望を最優先に、これまでかかりつけだった医療機関への受診を支援している。また歯科、眼科なども従来どおりのかかりつけ医を受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期の支援を行うことを指針としており、各ユニットに看護師が職員として配置されている。母体の医療機関との連携のもと、職員全員が看取りについて理解をし方針を共有している。家族には終末介護について説明をし同意書が取られており、終末介護に入った際には、家族と院長、職員で対応の話し合いを行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家族には個人情報保護法遵守についての説明をし同意書を作成し保管している。職員は採用時に守秘義務の誓約書を取り、倫理規定の講習も行っている。研修生、ボランティアにも同様の誓約書を取っている。個人記録は事務室に管理している。スピーチロックの研修会に参加し、言葉使いについては全員で注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にもあるように自分らしくあり続ける人生を支援しており、決まりごとは設けず一人ひとりのペースに合わせ、日々どのようにしたいかを尋ねながらゆっくりとした時間を過ごせるように職員は心がけている。		

グループホームみのりの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は季節感のあるメニューを利用者と一緒に考え、食材の買出しも一緒に出かけている。また、野菜や魚、パンは事業所まで売りに来られるので、利用者も一緒に買い物をしている。食事は職員一名は利用者と同じ物を食べており、食事介助の職員も一緒に会話をしながら楽しい食事となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を原則に支援している。それぞれのユニットで入浴日をずらしているため、毎日入浴できるようになっている。ただし、入浴の記録に利用者によってバラつきがみられ、清拭の有無が不明であった。	○	入浴拒否の利用者について清拭するなどの対応が記録され、日々の質の高い支援となることを期待したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域のボランティアの方がカラオケやパンフレターを教えに訪問され、利用者の楽しみとなっている。また、薬を取りに病院へ行く時や役所に行く時など、車でドライブを兼ねて希望する利用者は一緒にでかけ気晴らしの支援につなげている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所は広い敷地内にあるため、天気の良い日は散策したり、車椅子利用者も外気浴を兼ねて畑の見物に行っている。また庭掃除や駐車場掃除、花を植えるなど戸外での活動も希望する利用者と一緒にしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はなく、自由に入出入りできるようになっている。ユニット間も鍵はなく自由に行き来できており、鍵をかけない支援をしている。夜間は防犯のために施錠している。		

グループホームみのりの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回、利用者や地域住民も一緒に実施している。災害マニュアル、緊急連絡網も整備されており、災害時用としてミネラルウォーターやクッキーが備蓄されている。今後は地域住民と協力しながらの夜間想定訓練実施を予定している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に栄養士がおり、献立の栄養バランスのチェックをしている。また利用者に合わせて刻み、とろみの調理で提供し、食事摂取量は記録している。水分摂取については1000CCを目標に支援しており、利用者の体調や力に合わせ個々に対応している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビングは天井も高く気持ちよく過ごせる環境である。トイレや浴室などに臭気はなく換気がよくできている。リビングには利用者で作った貼り絵が飾られ、暖かい雰囲気となっている。台所の調理の音や匂いは生活感があり、テレビの音量や職員の話す声も大きすぎず快適である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は鏡台や仏壇、テレビなど利用者本人の生活に欠かせない調度品や道具が置かれており、自分の部屋として居心地のいい生活が送れるよう工夫がある。		

※  は、重点項目。